




2021-22 三春ロータリークラブ テーマ  
わくわく・ドキドキの三春ロータリー

Rotary 

Program

1. 開会点鐘
2. ロータリーソング「奉仕の理想」
3. 四つのテストの唱和
4. 会長挨拶
5. 幹事報告
6. 各委員会報告・その他連絡事項
7. PETS報告 橋本国春さん
8. 会員卓話 渡辺 浩さん
9. 閉会点鐘

三春町内(令和4年4月13日)

令和4年4月14日 (木) 12:30～ 場所：割烹 八文字屋

PETS報告・会員卓話例会

 会長挨拶 山口 晋司



皆さまこんにちは。桜の満開の三春町です。

現在、滝桜にて三春グルメの販売をさせてもらっていますが、3年ぶりの出店で感動しながら望んでいます。

自宅の喫茶業務、そして自分の業務もあり「2足のワラジ」を超え「3足のワラジ」、さらにロータリークラブ、国際交流等々、もう自分でも何してるのか訳分からなくなっています。この時期、桜の撮影ももちろんおこなっていますが、滝桜以外の三春町内の桜も本当に綺麗です。近所では福聚寺の枝垂れ桜、八幡神社の桜並木、大町の裏道の磐州通り、少し遠くでは桜ヶ丘の八十内かもん桜、三春駅周辺の桜並木、町内の名の通った桜を全て撮影すると1日では足りないくらいです。桜だけでなく町内を散策すると、色々な発見もできますのでお時間がある時は、ゆっくり歩いてみるのもオススメです。



●福聚寺の枝垂れ桜



●担橋公園の桜並木



●八十内かもん桜



 幹事報告

1. 第19回 三春RC杯 田村支部春季中学校野球大会

日時:4月29日(金)・30日(土)「予備日5月1日(日)」

場所:三春町運動公園 多目的運動場A

(29日)開会式 AM8:00～ 始球式 AM9:00

(30日)準決勝AM8:30～ 決勝PM1:00～(予定) 閉会式 PM2:50～(予定)

(準備物)三春RC旗・スローガン旗一式 ※出席の方は三春RCジャンパー着用





## PETS報告 会長エレクト 橋本 国春さん



(開催日時) 2022年3月12日・13日

(開催方法)

Zoom オンライン開催 1日目10時から17時40分その後、オンラインによる懇親会(欠席) 2日目9時から14時30分まで

(使用する資料)

事前配布なしで、自分でプリント、枚数が多く準備できない部分もあり。

(今回の特徴)

2日間に、グループディスカッション3回と、分区毎分科会あり。

(新年度は各セミナー等でもグループディスカッションを取り入れるとのこと。)

## 国際ロータリー

- 次年度国際ロータリー会長  
カナダ出身 ジェニファー・ジョーンズ会長エレクト(国際ロータリー初の女性会長)
- 2022-23年度RIテーマ IMAGINE ROTARY イマジン・ロータリー(想像)  
昨日のことをイマジンする人はいない。未来を描くこと。
- 7つの重点分野(要点のみ)
  1. 参加を促す  
会員の積極的な参加を促すために、ロータリーには「適応と改革が」必要
  2. 目的意識と熱意  
参加型の奉仕、人間的成長、リーダーシップ開発等目的意識
  3. クラブ環境  
会員に奉仕できなければ、地域への奉仕もできない。
  4. DEI  
多様性・公平さ・インクルージョン(支援・評価)を取り入れる努力。カギとなることは、障害を取り除くこと。
  5. 女性会員  
RI理事会が定めた女性会員の割合を30%にする目標の達成。
  6. 新しいクラブ  
新しいクラブを取り入れることは、ロータリーの成長に不可欠。
  7. つながり  
地域社会とのつながりを生かして協力関係を深め、新たなパートナーシップを構築していく。
- 年次目標(要点のみ)
  - ・より大きなインパクトをもたらす
  - ・参加者基盤を拡げる
  - ・参加者の積極的なかかわりを促す
  - ・適応力を高める





## 第2530地区

- 次年度ガバナー  
佐藤正道(喜多方クラブ)ガバナーエレクト
- 地区スローガン  
情熱、行動、感動、共有 情熱をもって行動し、感動を共有しよう
- 地区方針  
国際ロータリー2022-23年度年次目標を達成するために、DEIを取入れ地区規範を遵守し、ロータリー行動計画を実践します。
- 地区重点目標 (要点のみ)
  - (1) DEIを取り入れた会員増強拡大  
口頭説明では、例年ように一律の数値目標ではなく、各クラブがクラブの状況で目標を設定。
  - (2) よりインパクトのある奉仕事業の実践  
持続可能な変化をもたらす事業を進める。
  - (3) 活動の情報発信  
素晴らしい活動を行っても、他の人に伝わらなければ、共感や協力を得ることはできない。活動を広める。
  - (4) ネットワークの構築  
私たちの想いに賛同し活動する人々との交流。
  - (5) ポリオ撲滅  
野生株のポリオの発症例がなくなって6年が経過しないと根絶にはならない。  
その間毎年世界中の4億5千万人の子供たちにワクチンが投与。
- 分野別目標

 会員卓話 渡辺 浩さん

## はじめに

みなさんこんにちは。会員卓話のご指名ですので、少しお時間をいただき、話をしたいと思います。何をテーマにするか悩みましたが、仕事を通しての間ずっと考えていることとお話します。つたない内容かもしれませんが、最後までお聞きいただければ幸いです。



## 爛漫 三春の春



滝桜が満開(写真①)。三春が華やぐ季節到来。

三春滝桜が満開となりました。8日に坂本町長と幕田観光協会長が開花宣言をしてからあつというまに咲き進み、昨日(さくじつ)や一昨日(いっさくじつ)は周辺が一時、渋滞するほど大勢の花見客が訪れました。昨日午前、滝桜で取材の予定があり、田村警察署での用事を済ませてから向かったのですが、見事に渋滞にはまりました。警察署から滝桜まで、40分ほどかかったでしょうか。大駐車場もだいぶ混雑していました。きょうはどうでしょう。天候が若干、悪いですが、この時間もきっと多くの人が足を運んでいるのではないかと思います。お配りした資料の【写真①】は、11日夜の滝桜です。きれいですね。

滝桜ばかりでなく、町内の桜も花盛りで、まちじゅうが華やかな雰囲気になっています。新型コロナウイルスの感染拡大はいまだ収束せず、先の見通せない状況ですが、桜が暗い話題をいっとき忘れさせ、癒やしを与えてくれているような気がします。

## 滝桜 天然記念物指定100周年

三春滝桜は、岐阜県本巣(もとす)市の「根尾谷淡墨桜(ねおだにうすずみざくら)、山梨県北杜(ほくと)市の「山高神代桜(やまたかじんだいざくら)とともに日本三大桜に数えられます。1922(大正11)年10月12日、桜の木としては初めて、国の天然記念物に指定されました。今年でちょうど100年です。町や観光協会は100周年記念のさまざまな企画を繰り広げています。ライトアップは3年ぶりとなり、趣向を凝らした光の演出が滝桜を彩っています。

いうまでもありませんが、滝桜は三春の宝、財産です。町のまとめによると、2003(平成15)年には最多の34万2772人が花見に訪れています。過去2年は新型コロナで激減しましたが、滝桜はまちのにぎわいづくりに、なくてはならないものです。三春のブランド力向上に欠かせないものとも言えるでしょう。これからも大切に守り、次の時代に受け継いでいかなければなりません。

## 人口減少時代に直面して

「地域づくり」や「地域活性化」という言葉をよく耳にします。今は「地方創生」という言い方もされるでしょうか。少子高齢化が進み、全国的に人口減少が大きな課題となっています。隣の田村市は旧5町村が合併した2005(平成17)年3月に4万3800人余りでしたが、現在は3万4000人余りです。17年間で1万人近く減っています。三春町や小野町も例に漏れず、人口は減少傾向です。三春は1万7000人台となっており、小野はもう少しで9000人を割り込んでしまっそうです。

そうした中で、どう地域を維持し、元気にしていくか。自治体や各種団体、住民らは悩み、方策を探り、さまざまな試みをしています。それでも有効な方法というは、なかなか見つからないのが現状です。何らかの施設を造ったりイベントをしたりというだけでは一過性に終わり、持続的に維持・発展できる地域はつくれない時代となっています。

## …!! これは何?

一枚の写真をみなさんに見てもらいたいと思います。資料の【写真②】をご覧ください。

枯れ葉の上に何か小さな塊があるのが見えますか? これは何か、分かりますでしょうか? 虫が苦手な方がいらっしゃったら、申し訳ありません。これは、あるチョウチョの幼虫です。幼虫のまま一冬(ひとふゆ)を越し、6~7月に成虫になります。今は地味で貧相ですが、成虫になると、それはもう美しい姿となります。「オオムラサキ」というチョウです。【写真③】がオオムラサキの成虫です。日本の国のチョウ、「国蝶(こくちょう)」とされています。国蝶といっても、国の法律などで決まっているわけではなく、昆虫学会が日本を代表するチョウという意味で選定したそうです。

羽を広げると10センチ近くになる大型のチョウで、かつては国内各地に生息していました。羽ばたきの力が強く、「バサバサと音を立てて飛んでいた」とか「小鳥を追い掛けていた」などと言われることもあります。幼虫はエノキの葉をエサとし、成虫はナラやクヌギの甘い樹液を吸います。エノキ、ナラ、クヌギが生えている環境にしかすみません。近年では都市化に伴う開発などで、めっきり姿を見ることができなくなった地域もあります。逆に言えば、このチョウが見られる地域は、豊かな里山がまだ残っていると断言してもいいでしょう。

さて、この【写真②】のオオムラサキの幼虫、実は数日前に田村市常葉町で撮影したものです。カブトムシの展示で知られる「ムシムシランド」の近く、エノキの大木の根元にいた幼虫です。常葉町周辺の山林にはオオムラサキが自生しているのです。

このオオムラサキを豊かな里山の象徴として大切にしようという動きが常葉町で始まっています。ムシムシランドを運営する常葉振興公社がエノキの植樹を昨年からはじめました。昨年1年間だけで200本近くの苗木を植えました。公社が管理する土地はかつて牛の放牧地で、今は活用されていません。そこにエノキなどを植え、森に戻そうとしています。オオムラサキの暮らしやすい自然環境を整え、大切にしていこうとする試みです。幼虫がすくすく育ち、成虫となり、植樹したエノキに産卵する。そしてまた幼虫が増え、やがて成虫となって美しく木々の間を飛び回る。そんな夢を描いて公社は環境整備を進めています。



(写真②)



(写真③)



## 昆虫の楽園

ムシムシランドはこれまで、カブトムシを「売り」にしてきました。ではなぜ今、オオムラサキなのか。先ほどの話の繰り返しになりますが、カブトムシもオオムラサキも「豊かな里山の象徴」だからです。今ここにある「豊かな里山」を守ることに価値を見いだしたのです。

常葉の里山は、なんの変哲もない、「どこにでもある里山」です。でも、その「どこにでもある里山」を大事にし、地域の活性化につなげていこうと考えているのです。常葉振興公社の最終的な目標は「田村を日本で唯一の昆虫の楽園」にすることです。壮大な夢です。

少し話を脱線します。三春を含め、この辺りの人にとって、虫のいる環境は当たり前です。【写真④】をご覧ください。ちょっと気味が悪いと思う人もいるかもしれませんが、たくさんのクワガタです。ミヤマクワガタとノギリクワガタが合わせて50匹はいるのでしょうか。昨年7月、田村市船引町の某所で常葉振興公社の人らが採集したものです。私も参加する予定でしたが、仕事でかないませんでした。仕事をしている私を気の毒に思ったのか、「きょうの釣果」としてこの写真がスマホに送られてきました。わずか2時間ほど山を歩いただけでこれだけ採れたそうです。まだまだこの辺りには自然がたくさん、残っています。



(写真④)



(写真⑤)

次に【写真⑤】を見てください。これも船引町内の某所です。これは私も参加した昨年夏の昆虫採集の際の写真です。池のように見えますが、休耕田に水を張っただけです。耕作されずに荒れた田を有効に使い、地域の景観形成や環境保全につなげようと、地元の有志が「ビオトープ」にしたものです。田に水を張るだけで、そこに豊かな生態系が生まれます。ゲンゴロウやミズカマキリなどの水生生物が住み、水辺を好むギンヤンマが舞います。他の種類のトンボも産卵のためにやってきます。

虫が集まれば、虫を食べようとカエルがすむようになり、カエルがすめば、それを狙うヘビがやってきます。地元の方々はこのビオトープを今後、環境教育の場に活用していくのを目標にしています。写真に写っているのは水田一枚だけですが、現段階でこの周辺の四枚の田んぼをビオトープにしています。常葉振興公社の「田村を日本で唯一の昆虫の楽園」に一という取り組みに呼応しており、両者は連携を深めています。

## 虫を真ん中において地域をつくる

話を元に戻します。ここまで虫の話をしてきました。虫なんて珍しくもなんともない。この辺りの人にとってはそうかもしれません。でも、昆虫好きは老若何女、意外といて、例えばチョウはマニアが多く、「人が呼べる」昆虫です。旅するチョウとして知られる「アサギマダラ」が渡ってくる裏磐梯などは、アサギマダラを見るために多くの人が集まります。カブトムシやクワガタの人気は相変わらずです。虫は「地域づくりの核」になり得る素材とっていいと思います(ちなみに、アサギマダラは、数は少ないですが、田村市内の標高の高い山間部にも渡ってきます。昨年夏、殿上山の中腹で私も見ました)。

海外産の珍しい昆虫を集めなくても、ここにいる虫を中心に置いて、豊かな環境をアピールしていく。虫好きのあここがれの聖地を目指す。そんな地域づくりも「あり」だと思います。もちろん、虫だけで何十万人も人が来るとは思いません。しかし、豊かな自然に関心のある人との結びつきを持つことは確実にできます。そうした「特定の」外側の人と結びつくことで、地元の人たちも自分たちの住む環境の豊かさに気付くことができます。珍しくもなんともない「今ここにあるもの」が、地域の誇りになります。「すごい観光施設はないけれど、豊かな森林があって、生き物がたくさんすんでいるんだよ」とよそに自慢したくなる地域。そんな地域、「いいな」、と思います。

思い返せば、常葉はカブトムシで地域活性化を進めてきましたが、カブトムシの幼虫は、葉タバコ生産者にとっては邪魔なもので、見向きもされないものでした。でも今、ムシムシランドは夏の1カ月だけの営業で1万5000人近くが訪れる場所となりました。振興公社が毎年販売しているカブトムシの幼虫飼育セットは、3000円近くするものが200セット以上、売られています。

## 今そこにあるものを生かす

虫の話からさらに話を元に戻します。冒頭、桜の話をしました。滝桜。これは三春にとって本当にとてつもない財産だと思います。スーパースターです。田村市から見れば、うらやましい限りです。とてもかないません。

しかし、三春にいと、一部の町民から「三春には滝桜以外、何もない」という話を聞くことがあります。確かにそうかもしれません。でも、「本当にそうなの？」とも思います。そこにあるのに、まだ気付いていない「宝」があるのではないのでしょうか。

人口減少が進み、行政の財源も限りがある中、何を軸にして地域を元気にしていくのか。もう一度、足元を見詰め直す必要があるのではないのでしょうか。

## おわりに

「地域づくり」について思うところを話してきました。地域とは、地理的なエリアを意味するばかりでなく、コミュニティ、つまり人と人とのつながりの意味も含んでいます。戦後日本の教育学を牽引したひとりに、勝田守一(かつた・しゅいち)という学者がいるのですが、勝田は「地域とは一定の空間的な土地のひろがりという意味しているのではなく、『連帯』を顕在的に、あるいは潜在的に可能にしている人間集団の意味を含蓄しなければならない」としています。そうだとすれば、地域づくりは、連帯づくり、人と人とのつながりづくりでなければなりません。今そこにあるものを大切に磨き、人と人とのつながりがここ三春でも深まっていけばいいなと思います。



## 友好クラブ・交流クラブの活動紹介

八潮ロータリークラブ(埼玉) 4月17日(日) 18日(月)



2019-20年度(高橋裕会長年度)に企画され、2回の延期を余儀なくされた創立45周年記念バス旅行が開催されています。

